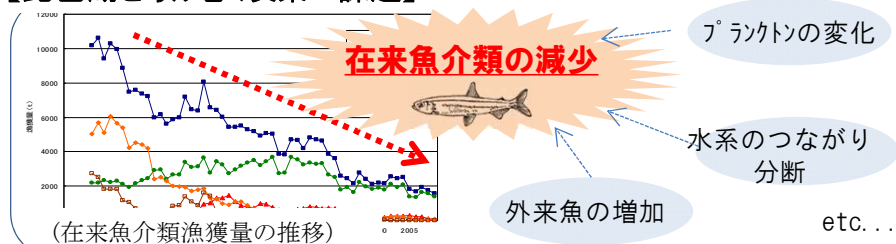


【琵琶湖を取り巻く喫緊の課題】



政策につなぐ研究の推進

魚介類の生息エリアに着目した研究内容設定

- ・湖底(セタシジミなど) → **底質・湖岸環境**
- ・湖と河川(アユなど)・湖と内湖等(ホンモロコなど) → **流域環境**

(**生息環境** と **餌環境** の視点からの研究)

在来魚介類のにぎわい復活に向けた研究

1. 連携研究の推進

- 県連携機関： 琵琶湖環境科学研究センター、水産試験場、琵琶湖博物館、農業技術振興センター

■ 生息環境の再生

- ① 底質・湖岸環境 15,349 千円
～シジミ類の生息環境等に影響～
・底質と底生生物との関係把握 (琵琶湖センター)
- ・人工湖岸化による底質への影響評価 (琵琶湖センター)
- ② 流域環境 8,599 千円
～アユ・ホンモロコの産卵適上等に影響～
・水系のつながりや環境条件の変化が魚類に及ぼす影響評価 (琵琶湖センター、琵琶湖博、農技センター、水試)

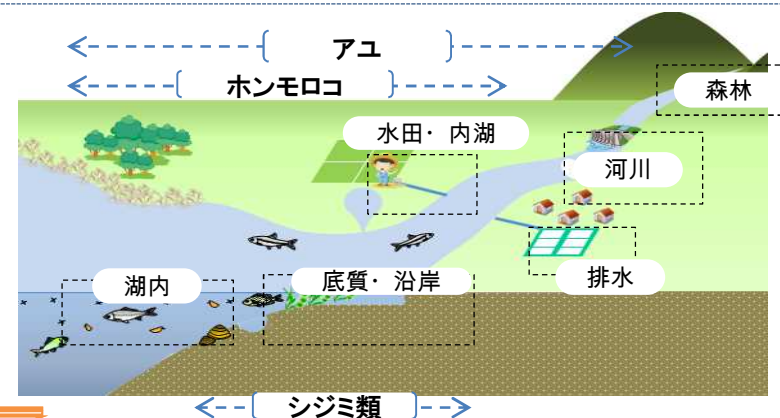
■ 餌環境の再生

- ③ 餌環境 6,143 千円
～アユ・ホンモロコ・シジミ類の生産力等に影響～
・餌環境相互の関係把握 (水質～植物・動物プランクトン～在来魚;琵琶湖センター(水試))
- ・餌環境からみた魚類資源量への影響評価 (モデル等による解析;水試)

2. 外部知見との交流

既存知見のレビュー資料作成と県内大学との研究会等の開催 (ゼロ予算)

- 琵琶湖環境に係る既存知見について、行政担当者や異分野の専門家間で共有するためのレビュー資料作成
- 研究会等を通じた県内大学等の知見の収集、交流
→ 新たな共同研究への展開検討



在来魚介類のにぎわい復活への方策説明

新琵琶湖博物館の創造～展示のリニューアル

【予算額720,116千円】

資一琵琶環 2

琵琶湖博物館
077-568-4811

新展示の特徴

◆体感！ 驚きと感動、学びと発見が生まれる展示

体感型・参加型展示や実物資料、交流の場の増加などにより、子どもから大人までが楽しめる、驚きと感動、学びと発見の機会に満ちた発信力の高い展示となります。

地域活性化の核となり、琵琶湖・滋賀を発信する拠点へ！

1. 第1期事業規模およびリニューアルスケジュール

- 第1期リニューアル経費 およそ15億円
- 第1期リニューアルスケジュール

	平成27年度				平成28年度	
	第1四半期	第2四半期	第3四半期	第4四半期	第1四半期	第2四半期
契約工期		← 建築工事(H27/7～H28/5) →				
		← 展示工事(H27/7～H28/7) →				
閉館期間		プレイベント	← C展示(H27/11～H28/7月上旬) →			リニューアルオープン
			← 水族展示(H27/9～H28/7月上旬) →			

2. 全体事業規模およびリニューアルスケジュール

- リニューアル総額 30億円程度
総合効果は56.99億円(波及効果倍率2.28倍)
就業誘発効果は508人
- 全体リニューアルスケジュール
平成29年度～30年度 第2期リニューアル(交流空間)
平成31年度～32年度 第3期リニューアル(A展示室、B展示室)

新展示

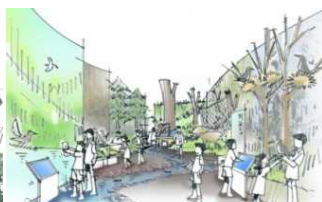
～ C展示室：琵琶湖周辺の環境と人びとの暮らし ～

琵琶湖岸から森林までの身近な景観を入り口に、環境・人間・生き物の関係性をわかりやすく示し、身の回りの世界の中に潜むおもしろさを知ってもらい、博物館の屋外展示や交流事業とつなぎ、魅力あるフィールドへ誘います。



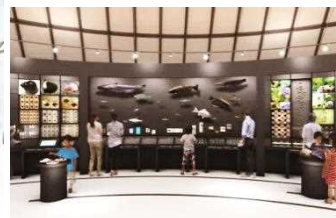
<琵琶湖へ出かけよう>

県民から募集した琵琶湖の写真展示など、滋賀県・琵琶湖の魅力をトータルで紹介。琵琶湖への理解を深め、観光への入り口。



<川から森へ>

森と生き物、人とのかわりを紹介。
・流域の治水・利水



<生き物コレクション>

当館収集資料を圧倒的な質・量・美しさで展示し、固有種および琵琶湖地域の生物多様性を示す。

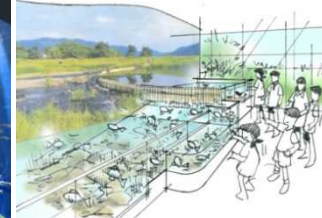
～ 水族展示：淡水の生き物と人びとの暮らし ～

琵琶湖に生息する様々な生き物を展示し、それぞれの特色や生息環境を通じて、琵琶湖のもつ生物多様性や食文化などの「生き物と人のかかわり」を伝え、驚きや発見を促します。



<沖合の水中・トンネル水槽>

空間イメージを刷新し、照明や擬岩などでよりリアルに湖中を再現。



<カトリヤナ水槽>

魚の生き生きとした生態を展示。あわせて食文化などの「生き物と人のかかわり」を伝える。



<マイクロアクアリウム>

肉眼では見えないプランクトン等微小な生き物を拡大し、迫力あるライブ映像で紹介。

琵琶湖における水草対策

水草刈取事業費 【予算額 210,478千円】

資-琵琶環3

琵琶湖政策課
内線3464

背景

水草の大量繁茂は、特に南湖が抱える多くの課題と密接に関連しており、適正な状態に管理することが課題。

これまでの水草対策を検証し、研究結果等も踏まえて、関係機関連携による調査、計画、刈取、評価を通じた琵琶湖の水草の順応的管理を行い、望ましい水草の状態を目指すとともに、南湖生態系の再生に繋げる。

主要な事業の概要

【予算額 208,764千円】

1 水草刈取事業(表層刈取り)

琵琶湖全域を対象に、夏季に大量繁茂する水草や流れ藻を、要請や調査を基に、計画的に刈取り除去。

⇒航行障害、腐敗による悪臭の改善

2 水草対策事業(根こそぎ除去)

南湖中央部を対象に、南北方向に水草の根こそぎ除去を年間を通じて実施。

⇒湖流の回復や溶存酸素濃度の回復による生態系影響の改善、枯死水草の除去による湖底の泥化の抑制

3 南湖横断部水草除去事業

ホンモロコが南湖東岸の産卵繁殖場から北湖まで移動できるよう水草を除去し、移動経路を確保する。

⇒ホンモロコの賑わい再生

新

4 南湖集中水草対策事業

水草が密集し特に除去が必要な群落を対象に根こそぎ除去を実施することで、他の区域への拡散抑制と繁茂抑制を図る。また、水草刈取船を新たに整備し、地域からの要望が集中する区域や美観維持が必要な場所ですら表層刈取りを実施。

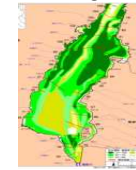
⇒水草異常繁茂への集中的かつ柔軟な対応

望ましい水草の状態
1930~50年代

水草の大量繁茂

- ・悪臭、航行障害
- ・底層酸素濃度低下、生態系への影響

H19

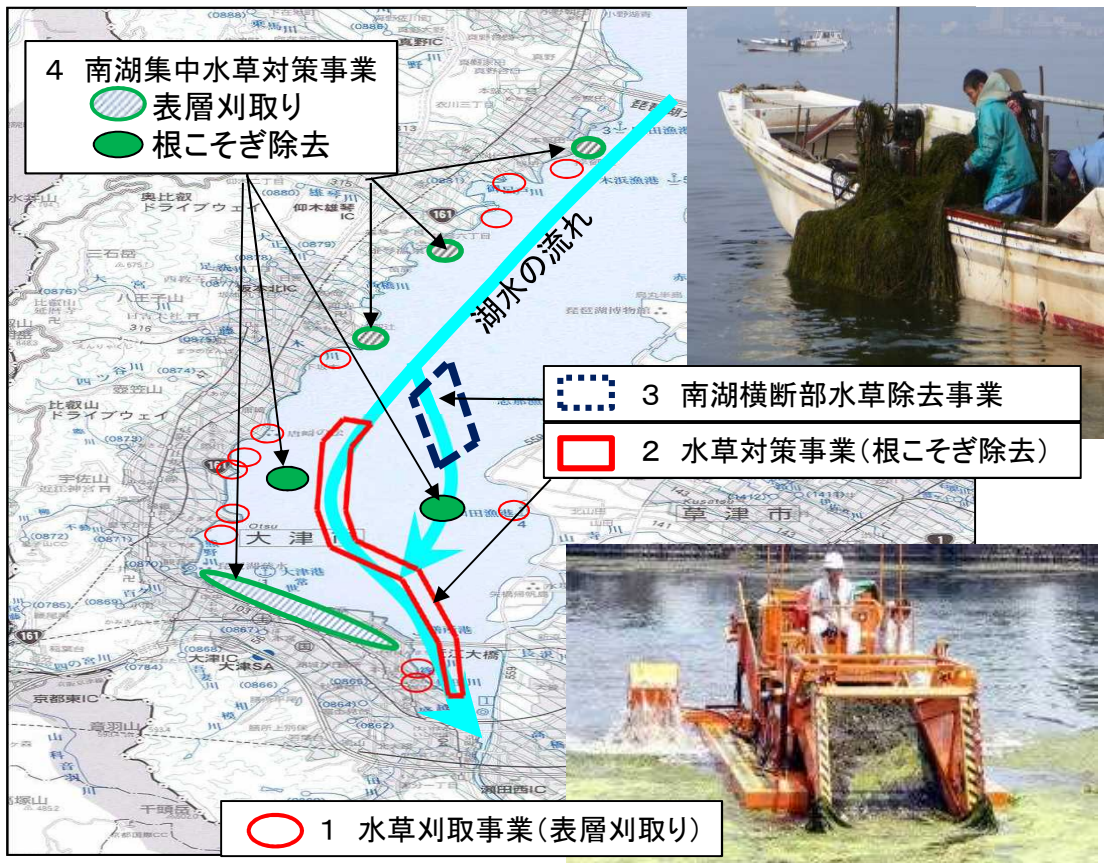


H9



4 南湖集中水草対策事業

- 表層刈取り
- 根こそぎ除去



新 次世代自動車普及促進事業

資一琵琶4

温暖化対策課
内線3493

予算額【8,731千円】

事業の趣旨・目的

- 滋賀県における二酸化炭素排出量の約20%を運輸部門が占めており、そのうち90%以上は自動車から排出されている。
- 環境性能に優れた次世代自動車の導入促進により運輸部門での更なる温室効果ガス削減を目指す。

事業の内容

- ① 関係機関との意見交換を通して県内の次世代自動車（電気自動車、燃料電池車等）普及方針を策定
- ② 県庁率先行動として燃料電池車を公用車として1台導入し、広く県民の目に触れる機会を作り次世代自動車への関心や需要を高める。



水素ステーション、燃料電池車を取り巻く状況

- 水素社会の実現に向け、家庭用燃料電池(エネファーム)の販売に続き、2014年12月から燃料電池車(FCV)が一般発売された。
- 国は2015年度内に4大都市圏を中心として100箇所の水素ステーションの整備を進めている。
- 本県においては、2015年夏頃に大津市内に水素ステーションの設置が予定されている。

琵琶湖水源林保全に向けた新たな展開

琵琶湖環境を再生するためには、水源である森林を健全な姿で未来に引き継ぐことが重要であり、琵琶湖森林づくり条例を改正し新たな取り組みを実施する。



①森林境界情報強化事業
森林境界対策推進協議会の設立、
研修会の開催、境界情報、収集支援

②水源地保全普及啓発事業
(仮称)滋賀県水源森林地域保全
条例制定による土地取引事前届出
制度の普及啓発、説明会開催

③水源林保全巡視員の配置
水源林保全巡視員の配置による
巡視の強化

④水源林公的機能評価事業
水源林の価値の評価手法の検討、
CVM等による機能評価

⑤巨樹・巨木の森保全検討事業
巨樹・巨木の森の現地調査、保全
対策の検討

水源林保全対策



林業振興対策

⑪県産材生産ネットワーク
構築支援事業
(仮称)県産材生産ネットワーク協議会の
設立運営支援

⑫林業・木材産業流通
コーディネーター設置事業
木材流通センターの需給調整機能強化のた
めのコーディネーター設置支援

⑬木材安定供給体制強化事業
木材流通センターによるB材(合板・集成材
用)の集約販売にかかる運搬支援

⑭木の駅プロジェクト推奨事業
自伐型林業を推進する素材生産活動などの
地域の取組支援

⑮木質バイオマス利活用促進事業
地域の木質バイオマスエネルギー利用の推
進、薪・ペレットストーブ導入支援



ニホンシカ対策

⑥地域ぐるみの捕獲推進事業
地域講習会の開催、生息状況調査等

⑦指定管理鳥獣捕獲等事業
捕獲実証事業

⑧鈴鹿生態系維持回復事業
シカ生息状況調査、植生調査、植生保護
対策、踏み荒らし防止対策、普及・啓発

鳥獣害対策の推進

環境学習(木育)の推進

⑨ウッドスタート支援事業
新生児や乳幼児に木の玩具や食器を
プレゼントする市町補助のモデル事業

⑩ウッド・ジョブ体感事業
「やまのこ」を経験した生徒に具体的な林業
の職場体験の場を提供する市町補助事業



生物多様性地域戦略の展開

資—琵琶6

自然環境保全課
内線 3483

(仮称) 生物多様性しが戦略

～自然本来の力を活かし、世代を超えて引き継ぐ「いのちの守り」～

生物多様性の危機に対する取組	生態系サービスの持続可能な利用の取組	生物多様性に対する理解と行動の促進	
生態系レッドリストの作成と保全施策の推進	里地・里山を活用した生態系サービス利用モデルの構築	保全活動の促進と活動資金の確保	生物多様性の普及啓発
<ul style="list-style-type: none"> ● 県内の重要な生態系の洗い出し ● 選定基準の設定 ● 生態系レッドリスト選定 	<ul style="list-style-type: none"> ● 里地・里山に着目し、モデル区域指定、行動計画の策定 ● 生態系サービス（行動計画に基づき生産された農産物、林産物等）の流通・利用のための仕組みの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 活動を評価・認証する制度の検討 ● マンパワー（活動団体）、フィールド（地域）、ノウハウ（学識者）、マネー（企業）間のマッチングを推進する方策の検討 ● 活動資金確保の仕組みの検討 	<ul style="list-style-type: none"> ● 生物多様性自治体ネットワーク総会（H27秋）開催に合わせた普及啓発 ● 生物多様性の普及啓発



伊吹山のお花畑
(生態系の保全)



里山保全の仕組みづくり



活動の顕彰



活動のさらなる促進

侵略的外来水生植物の戦略的防除推進

【予算額 42,700千円】

琵琶湖におけるオオバナミズキンバイ、ナガエツルノゲイトウなどの侵略的外来水生植物の早期根絶と新たな種の拡大繁茂に対応するため、国、県、協議会、ボランティア等による駆除活動の強化と、多様な関係者による監視活動による防除体制を整備することで、総合的な侵略的外来水生植物対策を実施する。

事業内容

侵略的外来水生植物戦略的防除推進事業【予算額 35,000千円】

県は、国や市町、県研究機関などと連携して、より効果的・効率的な駆除により、琵琶湖の生物多様性を脅かす侵略的外来水生植物を徹底的に駆除する。
県費35,000千円と国交付金10,000千円の計45,000千円で事業を実施する。

(事業主体)琵琶湖外来水生植物対策協議会

国、県、市町などで情報共有、対策検討、駆除等。

- **生態解明** 外来種の生態を明らかにして、効果的かつ効率的な駆除方法の確立と駆除を実施。
- **効果的駆除方法確立・駆除**

外来生物防除対策事業【予算額 7,700千円】

県民やNPO法人、市町などの多様な主体と協働で侵入した外来生物の拡大と侵入を阻止する。

普及啓発 早期発見 駆除活動

普及啓発や、多様な主体による新たな侵入種等の早期発見・監視、駆除活動を支援。

監視活動による防除体制の整備

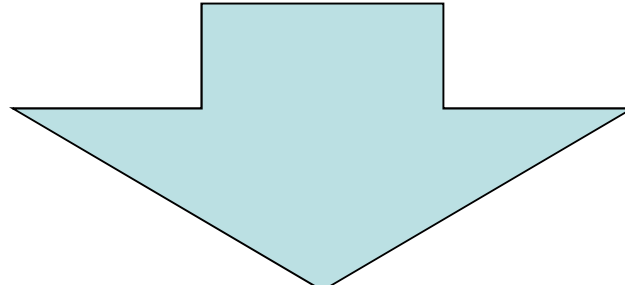
NPO、地域住民、漁協等関係機関によるエリア分け、役割分担など

環境省へ取組の要請

オオバナミズキンバイ駆除対策のさらなる強化
(近畿地方環境事務所による特定外来生物防除等推進事業)

県の生物多様性戦略

生物多様性地域戦略(平成26年度策定)での外来種対策の位置づけ。



オオバナミズキンバイ等の侵略的外来水生植物の根絶！

新 下水熱と再生水の利用可能性の検討調査

資—琵琶8

下水道課
内線4213

【予算額 7,500千円】

事業の趣旨・目的

- 下水の水温は大気に比べ、年間を通して安定している。この下水水温と大気温との差(温度差エネルギー)を冷暖房や給湯に活用することにより、省エネと低炭素社会づくりへの貢献が期待できる。
- また、限りある水資源の循環利用(=水循環)として、下水再生水のトイレの洗浄用水、修景用水、芝生の散水用水への利用可能性がある。
- 下水熱と再生水の利用可能性調査について、東北部浄化センター(彦根市)近傍で整備予定である国体滋賀大会(平成36年)会場を有力候補として検討を行う。
- 他の公共施設や低炭素まちづくり計画(エコまち法)の活用も含めた民間施設での下水熱・再生水の利用促進を図る。

【下水水温と大気温との比較 (イメージ)】

